

2026 年 10 月 30 日 全 7 頁

Indicators Update

2026 年 9 月 鉱工業生産

自動車工業が挽回生産で持ち直し、生産全体は 3 カ月ぶりに上昇

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈

[要約]

- 2026 年 9 月の生産指数は前月比+2.2%と、コンセンサス（同+1.2%、Bloomberg 調査）を上回り、3 カ月ぶりに上昇した。自動車工業は挽回生産で持ち直したほか、AI 関連需要で生産用機械工業なども増産し、生産全体を押し上げた。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は緩やかに上昇する見込み。AI 関連需要などが引き続き国内生産を押し上げよう。ただし、金利高による海外需要の下振れなどが生産を下押しするリスクには注意が必要だ。
- 2026 年 11 月 9 日に公表予定の 9 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差▲0.9pt の 117.1、一致 CI が同+0.7pt の 119.5 と予想する。この予測値に基づく、9 月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2026年									
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
鉱工業生産	▲2.0	▲0.4	+0.5	+0.1	+1.9	▲0.2	▲2.4	+2.2		
コンセンサス								+1.2		
DIR予想								+0.6		
生産予測調査									+5.1	+0.8
補正值(最頻値)									+3.9	
出荷	▲1.5	▲0.9	+1.3	+0.5	▲0.2	+2.1	▲2.9	+0.6		
在庫	+0.3	▲1.8	▲0.3	▲1.1	+2.8	+0.5	▲0.6	+2.5		
在庫率	+2.0	▲0.7	▲0.9	+0.7	+4.1	▲1.9	+1.7	+2.0		

(注) コンセンサスは Bloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】自動車工業は挽回生産で持ち直し、AI 関連需要で生産用機械工業も増産

2026 年 9 月の生産指数は前月比+2.2%と、コンセンサス（同+1.2%、Bloomberg 調査）を上回り、3 カ月ぶりに上昇した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

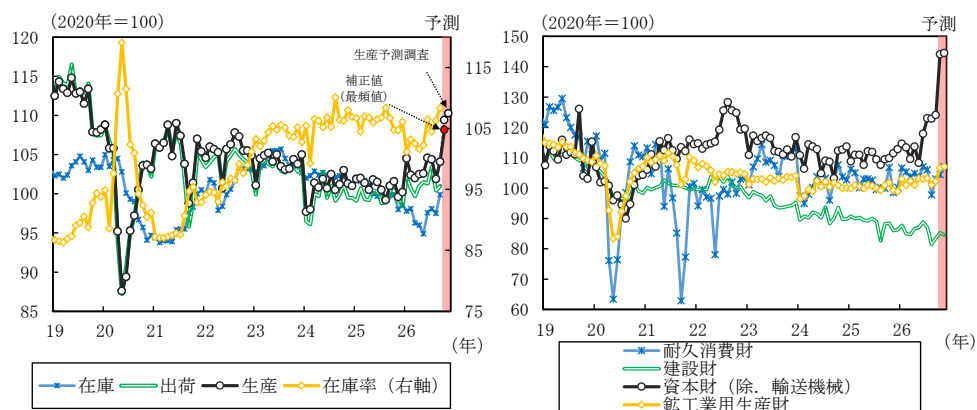
生産指数を業種別に見ると、15 業種中 8 業種が前月から上昇した。自動車工業（前月比+5.5%）は 2 カ月ぶりに上昇した。品目別では、普通乗用車（同+3.3%）や駆動伝導・操縦装置部品（同+7.0%）などが増産となった。前月は熊本地震や台風による工場稼働停止や部品供給の停滞を受けて生産が落ち込んだが、9 月は生産体制がおおむね正常化したことで挽回生産が進み、自動車工業の生産は持ち直した。また、生産用機械工業（同+3.4%）は 4 カ月連続で上昇した。品目別では、AI 関連製品である半導体製造装置（同+13.8%）のほか、化学機械（同+34.9%）などが増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、生産用機械工業は国内向け（同+7.8%）が好調だった。汎用・業務用機械工業（同+4.8%）では、コンベヤ（同+142.0%）や運搬用クレーン（同+35.5%）が増産となり、2 カ月ぶりの上昇となった。一方、鉄鋼・非鉄金属工業（前月比▲1.6%）や窯業・土石製品工業（同▲1.9%）など 7 業種は前月から低下した。鉄鋼・非鉄金属工業では亜鉛めっき鋼板（同▲10.0%）などが、窯業・土石製品工業ではガラス繊維（短繊維）（同▲6.3%）などが減産となった。

財別では、生産財（前月比+1.0%）、耐久消費財（同+5.3%）、非耐久消費財（同+0.9%）、建設財（同+2.5%）、資本財（除. 輸送機械）（同+1.0%）のいずれも増産となった。設備投資の関連指標である資本財（除. 輸送機械）は AI 需要を背景に大幅な増産が見込まれる。

【出荷・在庫】出荷指数は自動車工業などを中心に 2 カ月ぶりに上昇

2026 年 9 月の出荷指数は前月比+0.6%と 2 カ月ぶりに上昇した。業種別では、自動車工業（同+2.3%）や汎用・業務用機械工業（同+5.5%）など 15 業種中 8 業種が上昇した。財別に見ると、非耐久消費財と資本財（除. 輸送機械）、建設財は低下した一方、耐久消費財と生産財は上昇した。在庫指数は同+2.5%、在庫率指数は同+2.0%だった。

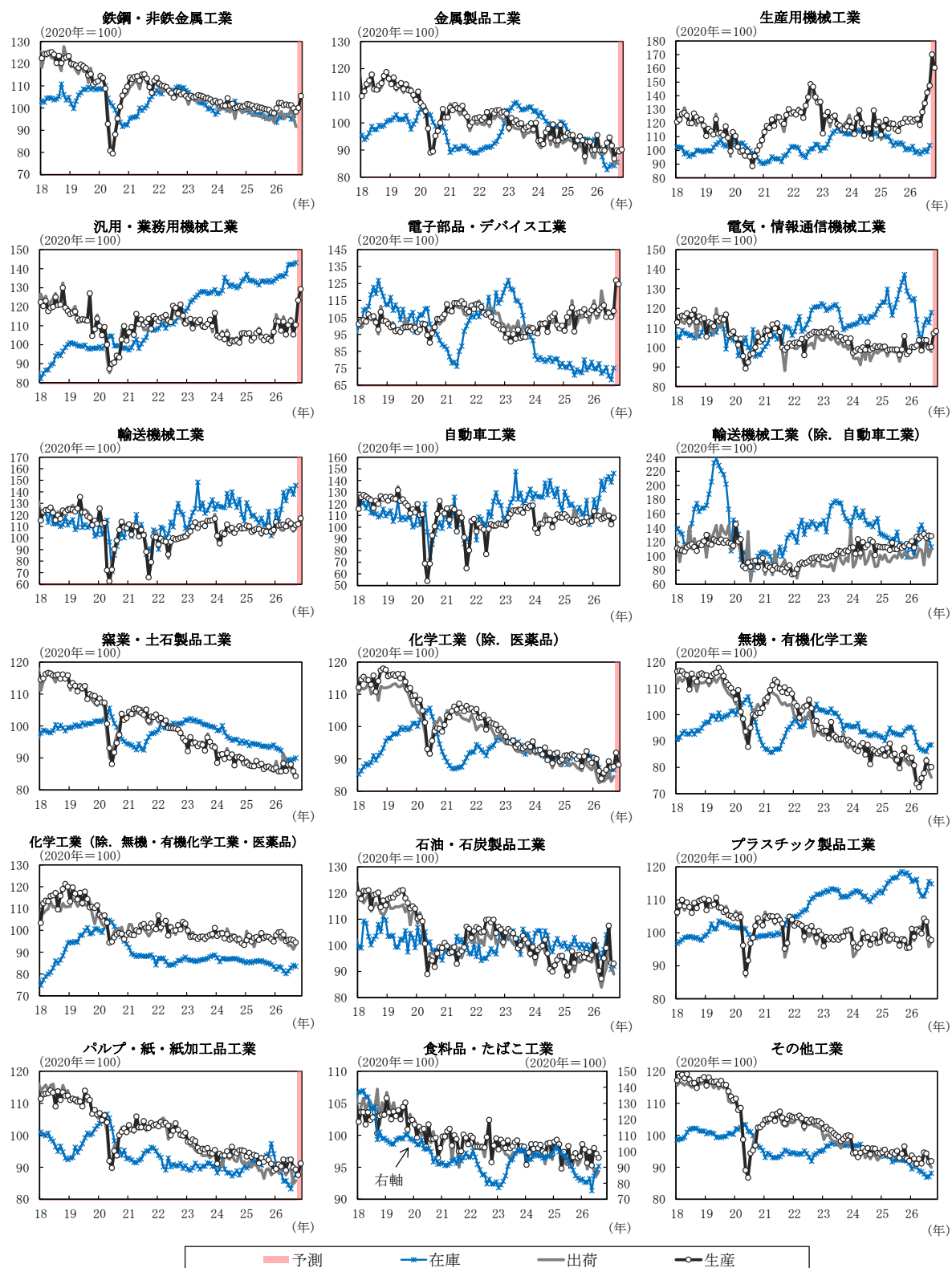
図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は緩やかに上昇する見込み

先行きの生産指数は、緩やかな上昇基調を辿るとみている。AI 関連需要などが引き続き国内生産の押し上げ要因となる。ただし、世界的な金利高、特に米国の金利高による海外需要の下振れなどが生産を下押しするリスクには注意が必要だ。

AI 関連財の拡大は 2024 年から日本国内の生産を押し上げてきており、今後も生産の押し上げ要因になると見込まれる¹。26 年 8 月の世界半導体販売額（3 カ月平均）を見ると、前年比＋144.3%と強い伸びが続いている。米国の販売額（同＋180.9%）がけん引する中、日本（同＋62.3%）²も力強さを示している。また、日本半導体製造装置協会によると、26 年 9 月の半導体製造装置販売高（3 カ月平均）は同＋48.2%と高い伸びとなった³。AI 関連を中心とする旺盛な半導体需要が反映されているとみられる。ただし、米国の金利高で AI 関連需要が下振れする可能性には注意が必要だ。高金利下で米企業の資金調達負担が増え、多額の資金を必要とする AI 関連投資が鈍化すれば⁴、日本の生産も輸出減を通して下押しされるリスクがある。

なお、中東情勢による悪影響は引き続き注視する必要がある。米国の中間選挙後に対イラン攻撃が再開される可能性も報じられており⁵、原油供給をめぐる不安は引き続き残る。一方、今年 2 月末に始まった中東危機を受け、ホルムズ海峡の輸送停滞への対応として政府が国家備蓄原油を放出して以降、初めて買い戻しが実施された⁶。代替調達が進み、国家備蓄原油の取り崩しが一服し、備蓄の補充が始まったことは好材料だ。ただし、情勢が再び悪化すれば、原材料不足を通じて生産が下押しされる可能性がある。

製造工業生産予測調査では、10 月の生産指数は前月比＋5.1%と見込まれる。業種別では 11 業種中 9 業種が上昇する見通しだ。電子部品・デバイス工業（同＋16.6%）で集積回路などの増産が計画されているほか、生産用機械工業（同＋15.5%）では半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置など、AI 関連製品の増産が全体を押し上げる見通しだ。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁷で見ると、10 月は同＋3.9%と上昇が見込まれる。

11 月の生産指数は前月比＋0.8%と見込まれている。業種別では 11 業種中 7 業種が上昇する見通しだ。輸送機械工業（同＋4.3%）では乗用車など、汎用・業務用機械工業（同＋4.8%）では計測・分析機器などの増産が見込まれている。

¹ 詳細は、神田慶司・秋元虹輝・菊池慈陽・横田凱「[日本経済見通し：2026 年 6 月](#)」（大和総研レポート、2026 年 6 月 23 日）を参照。

² World Semiconductor Trade Statistics “[Historical Billings Report](#)”（最終閲覧日：2026 年 10 月 30 日）

³ 日本半導体製造装置協会「[2026 年 9 月度販売高（SEAJ 速報値）日本製半導体製造装置（3 ヶ月平均）](#)」（2026 年 10 月 23 日）

⁴ 詳細は、矢作大祐・藤原翼「[米国経済見通し CoreWeave 問題をどうみるか](#)」（大和総研レポート、2026 年 10 月 22 日）を参照。

⁵ 「[トランプ政権が湾岸諸国に対しイラン攻撃への準備を要請 米中間選挙後に最終判断か](#)」（産経新聞、2026 年 10 月 29 日）

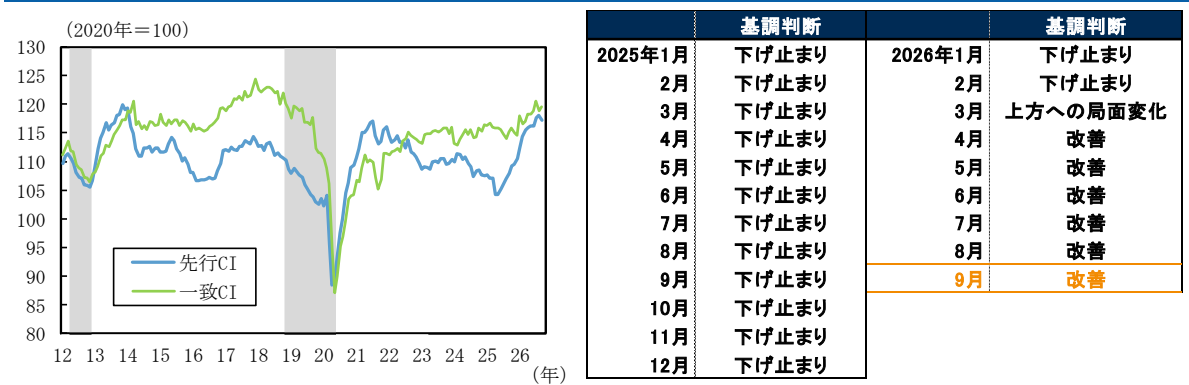
⁶ 「[国家備蓄原油、中東危機後初の買い戻し UAE 産を 200 万バレル](#)」（日本経済新聞 電子版、2026 年 10 月 28 日）

⁷ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【26 年 9 月景気動向指数】先行 CI は低下、一致 CI は上昇を見込む

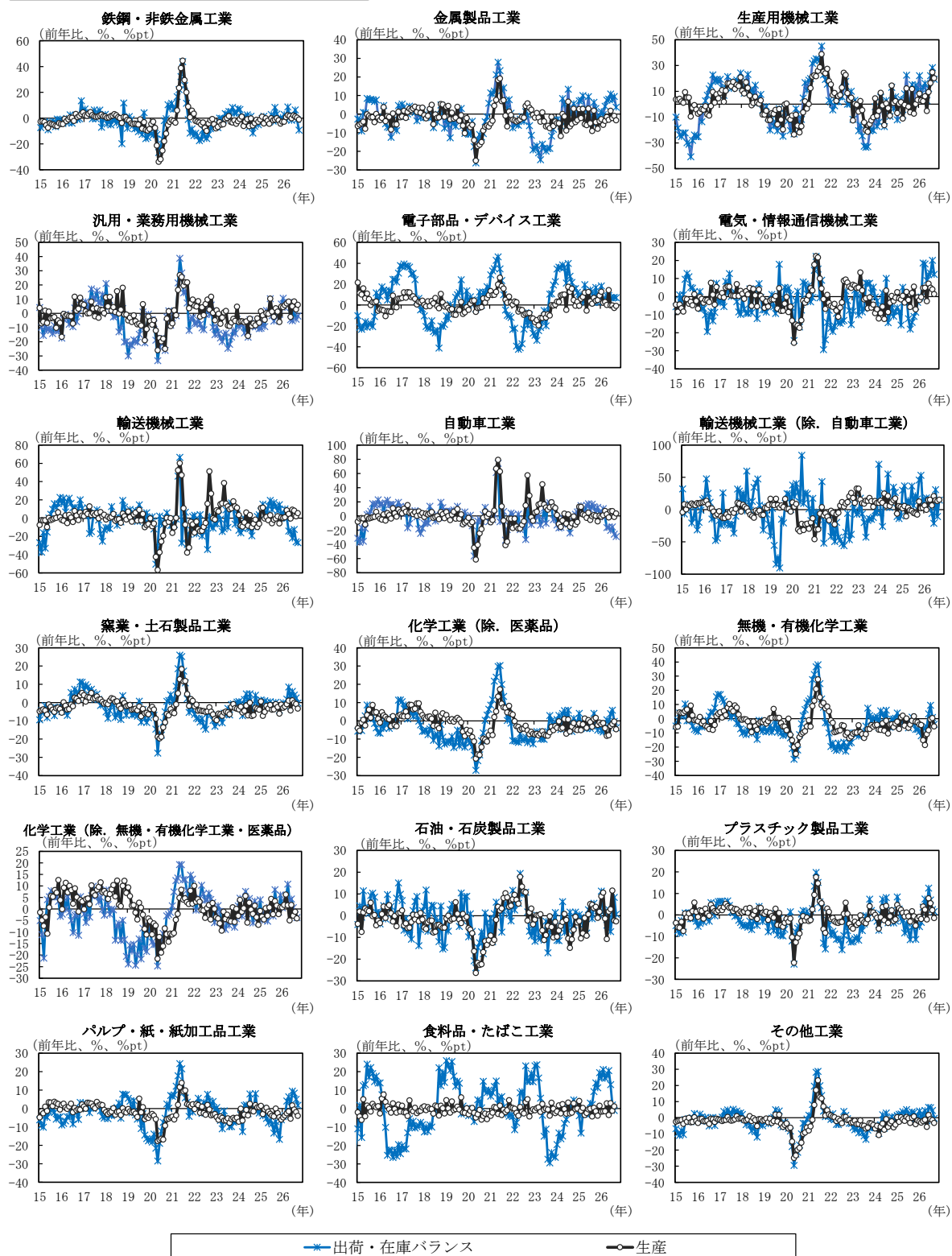
鉱工業指数の結果を受けて、2026 年 11 月 9 日に公表予定の 9 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差▲0.9pt の 117.1、一致 CI が同+0.7pt の 119.5 と予想する（図表 4）。先行 CI では構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数（逆サイクル）や最終需要財在庫率指数（逆サイクル）、東証株価指数などが前月から悪化した。一致 CI では構成指標のうち、生産指数（鉱工業）や鉱工業用生産財出荷指数、有効求人倍率（除学卒）などが改善した。この予測値に基づく、2026 年 9 月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表 4：景気動向指数（先行 CI、一致 CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。2026 年 9 月の基調判断は大和総研予想。
（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



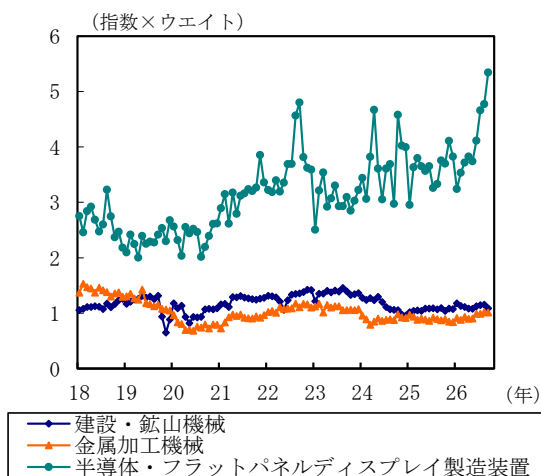
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

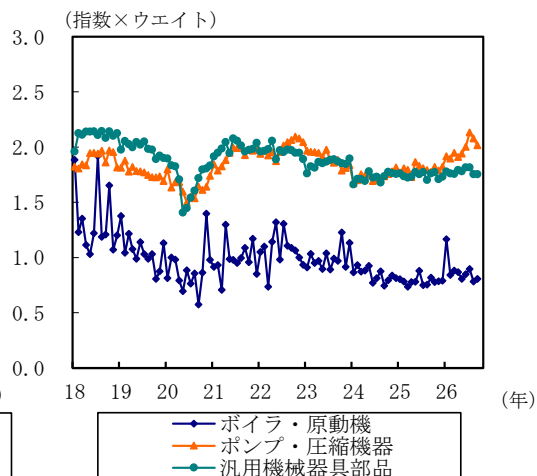
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

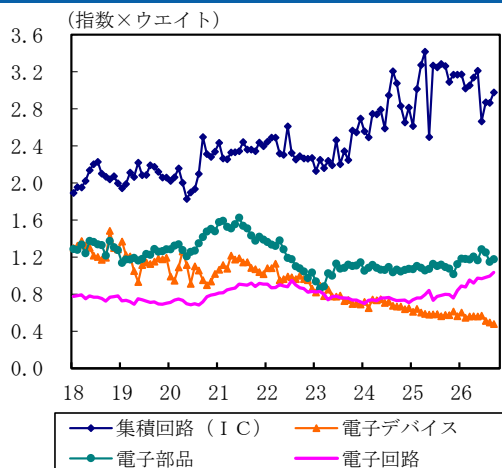
生産用機械



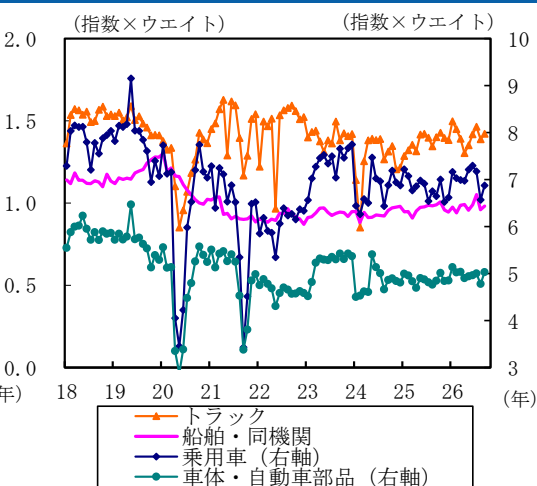
汎用・業務用機械



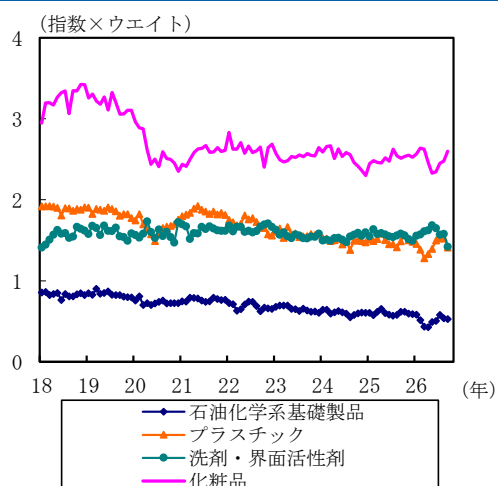
電子部品・デバイス



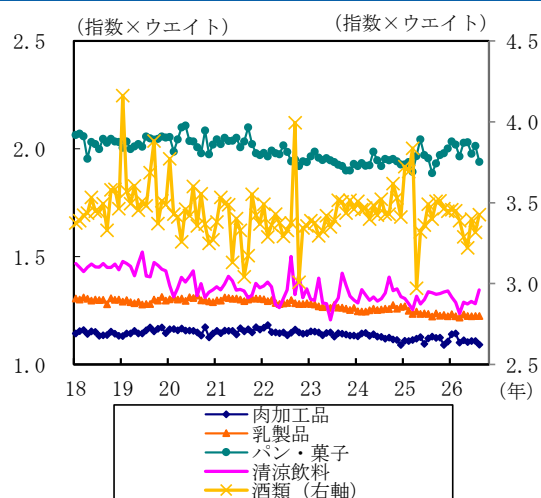
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成